

データブック 日本の鉄道

開業と廃止・150年のあゆみ

河合 篤 Kawai Atsushi



一般社団法人交通環境整備ネットワーク

最新刊 データブック日本の鉄道

日本の全鉄道、全路線の開業から廃止に至るすべてのデータを網羅。

現在の鉄道線も、既に廃止された鉄道線もこの一冊で、一目瞭然。日本の鉄道のあゆみをたどります。

発売：2026年3月14日

A4版 300ページ

定価：4180円（本体3,800円+税）

お買い求めは、東京神田「書泉」5Fで。

または、一般社団法人交通環境整備ネットワークのホームページから購入申し込みください。

著者紹介 河合 篤(かわい・あつし)

1954年東京生まれ。

1979年東京工業大学大学院理工学研究科(土木)修了。

1979年運輸省入省、以後、沖縄開発庁、運輸省鉄道監督局、国際協力事業団、運輸省大臣官房国有鉄道改革推進部、同省第三港湾局、埼玉県総合政策部交通政策課長、国土交通省鉄道局技術企画課長、同省近畿運輸局次長等を経て公益財団法人鉄道総合研究所理事、西日本旅客鉄道株式会社常務理事安全研究所所長等を歴任。

2022年より一般社団法人交通環境整備ネットワーク審議役。

鉄道の歴史研究をライフワークとして今に至る。

内容見本

はじめに
 凡 例
 第1編 国有鉄道・JRの路線
 1. 新幹線
 2. 北海道各線
 3. 東北線・奥羽線・羽越線
 4. 信越線・中央線・総武線
 5. 北陸線・高山線
 6. 東海道線・関西線・紀勢線
 7. 山陽線・山陰線
 8. 四国各線
 9. 九州各線
 第2編 公営・民営鉄道の路線
 1. 北海道の公営・民営鉄道
 2. 東北の公営・民営鉄道(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 3. 関東の大手民営鉄道
 4. 東京都営・横浜市営の鉄道
 5. 関東の公営・民営鉄道(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川)
 6. 新潟・北陸の公営・民営鉄道(新潟・富山・石川・福井)
 7. 甲信・岐阜の公営・民営鉄道(山梨・長野・岐阜)
 8. 東海の公営・民営鉄道(静岡・愛知・三重)
 9. 名古屋鉄道・名古屋市営の鉄道
 10. 近畿の大手民営鉄道
 11. 京都市営・大阪市営・神戸市営の鉄道
 12. 近畿の公営・民営鉄道(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 13. 中国の公営・民営鉄道(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
 14. 四国の公営・民営鉄道(徳島・香川・愛媛・高知)
 15. 九州・沖縄の公営・民営鉄道(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)
 第3編 資料
 1. 鉄道関係法制度の変遷
 2. 鉄道に関する国の行政組織・事業組織の変遷
 3. 鉄道路線延長の推移
 4. 社会の動きと鉄道
 5. 参考文献

2 北海道各線

事業者名	線名	年月日	区間	距離	備 考	
北海道各線						
青函航路 青森・函館 (S63.9.19廃止)						
開拓使	M5.9.1.25	青森・函館			開拓使郵便輸送用航路として開設	
郵便汽船三差会社	M12.6.	青森・函館			一般営業運航開始(月9便運航毎2日の日6日、青森発4日の日9日)	
日本郵船会社	M18.10.1	青森・函館			郵便汽船三差会社に移管(鉄道丸2506T)	
	M26.10.1	青森・函館・室蘭			日本郵船(共同運輸会社)と三差会社の合併により設立)が独自運航開始	
	M33.10.1	青森・室蘭			室蘭出張所を置いて「三港航路」開設(北海道鉄道百年史ではM26.2.運航開始とされているが、室蘭埠で業務を担った東洋汽船会社及び室蘭埠では10.1運航開始としている)	
逓信省(鉄道作業局)	M41.3.7	青森・函館			直行航路運航開始	
日本国有鉄道	S29.9.26	青森・函館			青函航路国有化	
北海道旅客鉄道	S62.4.1	青森・函館			台風15号により「洞爺丸」が遭難、1,155名死亡	
	S63.9.19	青森・函館			北海道旅客鉄道に承継	
					廃止(定期便はS63.3.14廃止)	
海峡線 中小国・木古内 87.8km						
北海道旅客鉄道	S63.3.13	中小国・新中小国(信)・木古内		87.8km	成気鉄道(AC50Hz20000V1067mm)開業(青函トンネル4(53,850m)完成/中小国・新中小国(信)2.3kmは津軽線と共用)	
日本貨物鉄道	S63.3.13	中小国・木古内		(87.8km)	貨物開業(第二種事業者)	
	R23.3.11	中小国・木古内			東日本大震災により不通	
	R23.3.15	中小国・木古内			運転再開(4.7の余震により再度不通、4.9運転再開)	
	R28.3.26	中小国・木古内			貨客(AC50Hz25000V)3軌軌化により北海道新幹線と施設を共用/中小国・新中小国(信)にAC50Hz25000V/20000Vセクション設置/在来線定期旅客列車の運行は3.21まで	
函館線 函館・旭川 423.1km						
大沼・森 35.3km						
開拓使	堀内(ほろない)鉄	M13.10.24	手宮(現・熊鷹野)函館道手前	(4.8km)	試運転	
	M13.11.11	手宮・函館		(17.6km)	正式開業	
	M13.11.18	函館・松川		(7.6km)	仮開業	
	M13.11.28	手宮・開道町・札幌		35.9km	開業/開道町駅はM14.5大火により焼失、住吉町に移設	
工部省(鉄道寮)	M15.2.8	札幌・江別		21.0km	江別市に移管	
	M15.6.25	札幌(岩見沢)・幌内		34.3km	開業/岩見沢はM17.8.15開業	
農商務省(北海道事務管理局)	M16.2.3	手宮・小樽			農商務省に移管、局内に炭礦鉄道事務所設置/旅客開業	
北海道(炭礦鉄道事務所)	M19.1.26	手宮・小樽			炭礦鉄道事務所を北海道(庁)に移管、M20.4.から鉄道事務所が所管	
村田壘(北友社)	M21.4.1	幌内太(→三笠)・倶利伽羅(→倶利伽羅)		7.2km	幌内鉄道の運輸、倶利伽羅線の建設を村田壘(北友社)が15年契約で請負(官有民営)	
北海道炭礦鉄道会社	M22.12.10	手宮・幌内、幌内太・倶利伽羅		(91.2km+7.2km)	幌内鉄道を北海道炭礦鉄道に譲渡	
	M24.7.5	岩見沢・砂川・歌志内		35.5km+14.2km	開業(砂川・歌志内は後の歌志内線)	
	M25.2.1	砂川・空知太			開業	
	M26.2.1	手宮・住吉(→小樽)・中央小樽(→南小樽)・幌内太・幌内		-0.8km+0.2km	手宮駅起点変更、このころ幌内鉄道路線が信上、空知太駅止	
	M26.3.26	手宮・札幌			変更はM26.3.21官報掲載/駅はM33.6.11小樽、M38.12.15中央小樽、19.7.15南小樽と改称	
	M31.3.21	手宮・札幌			0.7km	貨物開業(国有化時に手宮駅に統合)
	M31.3.21	空知太・旭川		-0.9km	幌内線移設	
	M37.7.1	砂川・旭川		58.3km	開業/砂川・旭川・空知太を北海道鉄道部が信上、空知太駅止	
	M36.2.3	手宮・小樽(→南小樽)		-0.1km	線路変更	
	M38.4.1	(空知太)・旭川		(58.3km)	逓信省に移管(空知太は空知太と上川線の分界点、以下同じ)	
	M39.10.1	手宮・小樽(空知太)		(115.6km)	国有化(北海道炭礦鉄道は北海道炭礦汽船と改称)	
北海道鉄道	M35.12.10	函館(→亀田)・本郷(→渡島大野)・新函館北斗		16.9km	成気鉄道(1067mm)開業/函館はM37.7.1亀田、本郷はM17.4.1渡島大野、H28.3.26新函館北斗とそれぞれ改称	
	M35.12.10	然別・鶴岡		13.7km	開業	
	M36.6.28	本郷・森		31.4km	開業	
	M36.6.28	山道・然別		6.6km	開業	
	M36.6.28	函館・小樽中央(→高島)・中		14.6km	開業/小樽中央はM37.10.15高島、M38.12.15中央小樽、	
	M36.11.3	長万部・熱帯(→歌楽→熱帯)		62.9km+28.2km	開業/熱帯はM37.10.15歌楽、M38.12.15熱帯と改称	
	M37.7.1	函館・亀田		1.3km	開業	
	M37.7.18	小樽・山道		14.0km	開業	
	M37.10.15	歌楽(→熱帯)・小沢		64.5km	開業	
	M38.8.1	高島(→小樽)・小樽(→南小樽)		1.6km	開業	
逓信省(帝國鉄道庁)	M42.10.12	函館・小樽		(265.9km)	国有化	
	M44.8.29	函館・旭川			開業/本線と線名制定	
	T15.8.1	砂川・上砂川		8.0km	開業	
	S6.12.1	美瑛・南美瑛		3.0km	貨物開業	
	S7.7.1	小樽・南小樽		3.2km	貨物開業	
	S19.1.25	美瑛・南美瑛		(3.0km)	旅客開業	
運輸通信省(総務局)	S2.12.25	札幌・砂原		8.5km	開業	
渡島沿岸鉄道	S3.9.13	森・東森		0.9km	開業	

北海道各線